

「教育環境の再編」これまでの取組

取組経過 平成 26 年 4 月 ~

区政会議・部会

・計 7 回

教育行政連絡会

・計 2 回(28 小中学校長)

教育保育連絡会

・計 2 回

(幼稚園保育園所、小中学校等 64 施設)

住民説明会

・西側全 11 小学校 (のべ約 650 名)

出前講座

・計 2 回 (のべ約 90 名)

これからの教育環境を考えるワークショップ

- ・第 1 回：施設見学「小中一貫教育校の見学」(奈良市富雄第三小中学校) < 参加者数 27 名 >
- ・「施設見学報告会」 < 参加者数 12 名 >
- ・第 2 回：ワークショップ「校区の小中学校で行っている良いと感じること」【今】
< 参加者数 31 名 > 「校区の小中学校にはないが良いと感じること」【これから】
- ・第 3 回：ワークショップ「中学校のことってどれくらい知ってますか？小学校のことより知らないのはなぜ？」
< 参加者数 39 名 > 「『学校』『地域』ができること、やってほしいこと？」

⋮

これまでの取組から

子どもたちには**いろんな経験をさせることが大切**というのが、様々な意見に共通している点。
いろんな人たちとコミュニケーションし、豊かな人間性を育むことが、これから人生を過ごし、
社会生活を営んでいく上での基礎となり重要。

子どもたちを丁寧に見守り、育んでいくためには、**幼稚園や保育園・所と小学校、小学校間、小学校と中学校などでの子どもの交流や教員の連携が大切**だが、現状では物理的、時間的な制約もあり難しい。

小学校については、教育コミュニティが根付き、いろんな立場の方が学校に関心を持ち、保護者や学校だけでなく、**地域全体で子どもたちを育てていただいている状況**。

中学校においては、複数の小学校区で構成されているということもあり「地元」という意識が薄れ、**地域と学校の関わりや交流が少なくなる傾向が大きい**。学校からの情報発信が少ない、学校に行く機会がない、距離や就学期間の短さも影響して、**総じて「よく知らない」とう状況**。

中学校区単位での地域対抗イベントや防災訓練の実施など、地域連携の強化や学校情報の共有など、**中学校においても保護者・地域住民が学校に関心を持ち、支えていくことが大切**。